

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月15日(水) 16:00～16:30

場 所：記者会見室

出席者：知事、健康福祉部長、医療統括監、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：17名、テレビカメラ7台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について(第44～49例)

フリー質問

(1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

新たに6名の方の感染が確認されましたのでお知らせをいたします。本県では44例目から49例目となります。

感染者44から48までの5名の方は、これまで公表した、感染者16、28から30、36の職場の同僚の方でございます。

感染者44は、60代の女性で、米沢市にお住まいの従業員の方です。4月7日からお休みをされています。4月7日から37℃台から38℃台の発熱がありました。4月12日に医療機関①を受診されております。発症前1か月の海外、県外への行動歴はありません。

濃厚接触者につきましては、調査中でありまして、感染症指定医療機関に現在入院中でありまして。

感染者45は、60代の女性で、米沢市にお住まいの従業員の方です。4月7日からお休みをされています。4月9日から全身倦怠感があり、4月13日からは鼻水の症状もありました。発症前1か月の海外、県外への行動歴はありません。濃厚接触者については、現在調査中です。感染症指定医療機関に入院中でありまして。

感染者46は、50代の女性で、米沢市にお住まいの従業員の方です。4月4日からお休みされております。4月4日から咳と痰、のどの痛みがあり、5日からは37℃から38℃台の発熱もありました。発症前1か月の海外、県外への行動歴はありません。濃厚接触者につきましては、現在調査中でありまして、感染症指定医療機関に入院中でありまして。

感染者47は、40代の女性で、米沢市にお住まいの従業員の方です。4月7日からお休みされています。4月8日から鼻水と頭痛、全身倦怠感がありました。発症前1か月の海外、県外への行動歴はありません。濃厚接触者につきましては、現在調査中です。置賜地域の医療機関に入院予定でございます。

感染者48は、40代の女性で、高畠町にお住まいの従業員の方です。4月7日からお休みをされています。4月11日から13日に発熱と、のどの痛みがあり、昨日14日は鼻水と、のどの痛みがありました。発症前1か月の海外、県外への行動歴はありません。濃厚接触者につきましては、現在調査中です。置賜地域の医療機関に入院予定です。

最後に、もう1件、49例目でございますが、40代女性で山形市にお住まいの方の感染が判明したと聞いております。詳細につきましては、山形市から発表があるものと思っております。

これまで感染が確認をされた方、49人になったわけでございますけれども、そのうち2名が、2回連続で陰性が確認され、今後、退院の見通しとなります。現在入院されている皆さんが、1日も早く回復されて、そして日常生活に戻れるよう心から願っております。

本当に本日も6名確認されたということでもあります。感染が短期間のうちに急速に広まっておりますし、県民の皆さんは本当に不安に思ったり心配されていると思っておりますが、くれぐれも冷静に落ち着いて行動していただくようお願いいたします。

そして、毎日申し上げておりますが、やっぱり丁寧な手洗い、咳エチケット、これは欠

かさないでいただきたいと思います。そして 3 つの「密」と言われておりますけれども、屋内においては 3 つの「密」、密閉、密集、密接、この 3 つの「密」を避けてください。屋外におきましては外ですから、外にありましては 2 つの「密」、密集と密接を避けてくださいますようお願いをいたします。

何と言いましても、この難局を乗り切るためには、県民の皆さんのご協力が大切でありますので、申し上げますが、繰り返しますけれども、県外との往来を控えてください。法要などのさまざまな行事は県外からの参加を見合わせてくださるようお願いいたします。そして 3 点目、不要不急の外出を控えてくださるようお願いいたします。4 つめが県外のご親族の来県を見合わせ、既に来県されている方は 2 週間健康観察をおこなうという、この 4 点について、今日もお願いをいたします。

ただ 1 つ例外があります。今日、実は医療専門家の皆さんからお話を伺ったわけでありましてけれども、私、妊婦さんのことをちょっと、どうしても伺わずにおれなかったので、妊婦さんについてはどうでしょうかというようなことをお聞きをしましたらば、皆さん全く同じお考えでありました。早めに来県していただいて、そしてやっぱり 2 週間程度自宅待機というようなことをしていただいて、それから受診していただくと大丈夫ですというようなことでありまして、そのことを県民の皆さんに周知していただきますようお願いいたします。やっぱり感染拡大している地域に住んでいてそこでというようなことも大変ご不安が大きいのではないかと私は思っておりますので、特にその点だけはですね、ちょっとお伝えをさせていただきたいと思います。

それからですね、県の新型コロナに係る相談を受け付けるコールセンターが混みあっております、つながりにくい状況になっておりますが、予防法や生活一般についてのご相談につきましては、県の「新型コロナ相談窓口」やフリーダイヤルである厚生労働省のコールセンターもご活用いただきたいと思います。県のコールセンターにつきましては、回線の増設といった対応をとっていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

また、濃厚接触者の方など、PCR 検査の対象者が多くなってきておりますが、医療機関での院内感染リスクを減らしながら効率的に検体採取をおこなうため、必要に応じてありますが、車に乗ったまま検査をする「ドライブスルー方式」で対応するなど、必要な方にしっかりと検査を受けていただける工夫も既に行っているところであります。

このように、医師や看護師などの医療従事者の方々は大きな使命感のもと、本県の感染拡大防止に日夜尽力をされておりますので、本当にこの場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。そして感染された方々、そのご家族に対して、また会社とかですね、そういった所に対しての差別、そしていじめといったことはくれぐれもそんなことを行わないでいただきたいと思っておりますし、医療従事者の皆さんにも、そういった偏見や差別、いじめというようなことは断じて行わないでいただきたいと思っておりますので、よろしくようお願いいたします。

最後になりますけれども、報道機関の皆様には、個人情報保護およびご自身の感染リスクを回避する観点からも、施設や医療機関等への取材はご遠慮いただきますようお願いいたします。

あとですね、今日午後からですけれども、2時から私と医療専門家との意見交換を行いました。その中のおおまかなところをですね、皆さんにご報告したいと思います。

まず緊急事態宣言についてであります。県民の皆さんが自粛疲れで緩んでしまって感染拡大に繋がるといったことがないように、早いうちに出されたほうがいいと思う、そしてゴールデンウィークが一つの目処ではないかと、その前に出されたら良いのではないかとということでもあります。感染者の数で言えば、宣言をしてもしかるべき状況になってきているというふうなご意見がありました。

それから2つめですが、県境での検温ですね。検温につきましては、県外からの来県者が感染源になってそこから感染が広がっているということを考えれば、意義のある取組みだと思いうご意見を頂戴いたしました。

それから最後なのでありますけれども、医療体制の確保、医療崩壊の防止のために、医療界も連携・協力をします、ということです。重症者への医療を確保するために、軽症者をその病院以外の施設で診療できるような体制づくりが重要だと、とにかく医療崩壊しないようにすることが本当に大事なことだというようなご意見。以上3点をいただきましたので、皆様にご報告させていただきます。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

山形テレビです。今回の発表で、同じ職場での感染が拡大して、クラスターのような感染拡大が見られるのですけれども、そのことに関して知事のお考えというか、そういったところをいただければと思いますが。

知事

はい、そうですね、職場内の感染が連日ですね、確認されております。家族ということもございますけれども、山形県の場合ですね、みんな仲が良いというところがございます。それは本当に平時にあってはこんな素晴らしいことはない、美点だと思っておりますけれども、ことコロナの感染ということは今、拡大を防がなければなりませんので、このコロナ感染が心配される現状におきましては当面の間やはり距離を取っていただきたいというふうに思います。医療専門家の皆さんはディスタンスという言葉を使っておられますけれども、ソーシャルディスタンスという言葉だったかと思うのですけれども、やはり家庭内でも職場内でもですね、コロナに感染しないというようなことを、お互いに思いやりを持って距離をちょっと取っていただくということがやはり大切だということをお聞きしまして、本当にそれが今求められている、皆さんが一人一人がやはり、

ご本人も周りの大切な方もみんなが命と安全を守るというためにはですね、ちょっと距離をおいておくという、それは心の距離ではなくてもう本当に具体的な距離でございませうけれども、そういったことをですね、ちょっと実行していただければというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの高橋です。先ほど検温について、非常に意義のある取組みだという意見があったという話があったのですが、逆に慎重な意見というか反対意見みたいなものというのは出ていなかったのでしょうか。

知事

今日はそうですね、複数の先生にお聞きをしたわけでありませうけれども、やはりこれまでの感染源となっているのが、主にそういう所が多かったので、やはりそこをしっかりとブロックするというところで、意味があるというふうにおっしゃっておられました。

記者

全てのルートで検査が完全かどうか、全てのルートでできるわけではないという部分もあると思いますが、その点については何か意見というのはなかったですか。

知事

もちろん望ましいのは全てのルート、全てのルートという言葉はお使いにはならなかったけれども、本当に、例えば全台止められないというようなこととか、あと鉄道も福島～米沢間のその間にも、何かしたほうがいいんじゃないかというような、具体的なことまであったのですけれども、いろいろな規制がありますし、私は県内でということも申し上げているし、あとはJRさんのご意向とかそういうこともありますし、ちょっと本当にいろいろなことを考えながらやっていくというようなこともお話したところであります。

記者

ありがとうございます。

知事

ちょっといろいろ細かいことは後で聞いてもらえればと思います。

記者

共同通信の木下です。細かいことに当たるかあれなんですけれども、その検温をですね、実施するということが具体的にどの程度現実的にできるのかということと、一体いつごろ始められるのかというのが、多分県民の皆さん気になる場所だと思うのですが、例えば道路は難しいから駅だけやるとかですね、どの程度知事としてスケジュール感というのを見込んでいらっしゃるのでしょうか。

知事

はい。今話してしまうと、明日の会議で公表する意味がちょっと薄れてしまうかなと思いますので。

記者

明日会議をされる。明日、第2回の会議があるのでしょうか。

知事

順調にいけばそういうことでありますが、次の会議の時に具体的なことをお話できますので、まだいろいろやり取りしなきゃいけないところもありますので、まだ完全かというと、決まっているわけではないということをご理解いただきたいと思います。すいません、ちょっと言い過ぎたかな。

記者

毎日新聞の的野です。先ほど、ドライブスルー方式でそういった検温を対応していくというような発言があったかと思うのですが、県外の事例では、サービスエリアなどで車を止めて、医師を配置してそこで検体を取るといったこともされているそうなのですが、そこまではされず、あくまでも検温という形を今のところご検討ですか。

知事

いやいや、それは。

記者

先ほどおっしゃられていた PCR 検査で、ドライブスルー方式で PCR 検査の採取をされるということ。

知事

はい、実はいろんな県民の方々からですね、ドライブスルーというのを韓国でやっていると、ご示唆をいただいていたのですが、調べてみたら新潟市でもやっ

るとかですね、私などはそれが検査なのかと思っていましたらば、検体採取のことなんです。だからドクターがですね、車の中にいる方の検体を採取するということでもあります。それは本県でももう始めているということを申し上げました。

記者

そうですね。それは実際にお医者さんを配置して、県内どれくらいの場所でやっつけらるのですか。もう結構、何か所か。

知事

それはちょっと、後でお聞きになったほうがいいかな。すみません。

記者

すでにやられているという話なんですね。わかりました。ありがとうございます。

記者

NHK の新藤といいます。先ほどの有識者会議の件でお伺いしたかったのですが、先ほど、知事はこうした意見があったということを報告してくださいましたけども、それを受けて、知事はどのように受け止めて、今後、その緊急事態宣言の件とこの検温について、どのような対応をこれからしていきたいというふうにお考えでしょうか。

知事

そうですね、検温といいますか、啓発運動みたいなことになるかとは思いますが、検温もさせていただける範囲内で行っていきたくて思っておりますけれども、そのことについてはまた今、内部と言いますか、国会議員も含めてやり取りしている最中です。それはしっかりできる限りのことをやっていきたいというのがまず一つですね。

あと、その緊急事態宣言ということになりますけれども、これもどこまで言ったらいいのでしょうか。やっぱり私もゴールデンウィーク前というのは一つのやはり目処ではあるかなと思っております。

と言いますのは、今日で 49 例目までなりました。恐らく明日は 50 を越えるかと思いません。人口 100 万の県で 50 と言いますと、1,000 万のところでしたらば、もう 500 ということになりますので、10 倍ですからね、やはり大変な事態だというふうに思っております。そういった人数というものもあり、また医療がですね、都会に比べて医療資源が少ないというそういう中で医療崩壊しない方向に持っていかねければならないということもありますので、その前にやはり緊急事態宣言というもので、もっとしっかりとご協力を、さらなる自粛のご協力をいただくというような意味でのメッセージということになるかと思うのですが、そういった宣言、人数も横目で見ながら、そして医療の現場も見極めなが

らですね、やっぱり早目早目で出していかなきゃいけないということを思いますと、やはりゴールデンウィーク前なのかなというふうに受け止めているところです。

記者

今回その話合いの中では、緊急事態宣言の基準についてということで意見を伺ったという状況だと思うのですが、県のほうで、この基準についてはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。これは県ですよ、県が独自に出す話ですので。

知事

そうですね、はい。

記者

緊急事態宣言を出す基準という部分について、今回話し合ったと思うんですよね。その基準についてはどのようにお考えでしょうか。

知事

はい。これはですね、しっかりとした一定の基準は見当たらないわけでありまして。全国調べてみましたけれども、7都府県は政府からの指定対象区域になりましたが、それ以外に県独自で出しておられるところがあります。本当にいろいろでした、調べてみて。

ですから、その県なりの、やはり感染者数でありましたり、あるいは感染経路でありましたり、医療専門のほうから見ると、感染経路が特定できない人が多くなってきた時というのが一つの目安にはなるらしいのですが、ただ医療資源も少ない、それから積極的疫学調査というのにもかなりの負担と言いますか、人数もかけなきゃなりませんし、そして医療現場ですね、いろんなことを考えますと、それははっきり言えば、もう総合的に勘案して、状況を見てということになるかと思っております。今日のご意見を踏まえて、さらに内部で、その本県なりの基準をどうしたらいいかということについて、しっかりと検討していきたいというふうに思っております。

記者

あと、最後に検温の部分なのですが、有識者会議のほうでも数日後というふうに知事はおっしゃっていて、検温の部分についてはですね、数日後というのは本当にもう迫ってるなという状況なのですが、今の状況でどういうふうなですね、それをいつ始めるかについてですね、いつ判断するのも含めて、そろそろやっぱり県民に伝えるべき部分もあるのかなと、時期に来ているのかなという部分もあると思うのですが、その点はどのようにお考えでしょうか。

知事

はい。そうですね、やはり総合戦略会議がございますので、その次の会議でやはり公表するということにいたしておりますので、それをご理解いただきたいと思います。

そのあと速やかに、できる限りのことを実施ということになります。毎日毎日そのことを打合せをしております、調整もしているわけでございますけれども、まだ詰めなきやいけないところが結構残っておりますので、今ここで発表するわけにもいかないわけでありますので、まず次の会議までお待ちいただきたいと思います。

記者

ちなみに、次の会議とはいつ開かれるのでしょうか。

知事

そうですね、まだ、今週中なんですけれども、目指しているということであります。

記者

読売新聞の山口と申します。緊急事態宣言なのですけれども、示される時期としては、次の戦略会議の時に検温のところと合わせて、いつ発出するかというのも示すのでしょうか、それとはまた別の話ですか。

知事

いや、それは県境部分での検温とか注意喚起実施ということの会議でありますので、非常事態宣言というのは、それは県として判断して、発することになりますので、別でございます。

記者

わかりました。あと、今日の専門家会議の中でですね、県境の検温についてもご意見を伺ったと思うのですが、その中で、意義のある取組みだと思うという意見があったというお話だったのですが、具体的にどういう点において意義があるというようなご意見があったか教えていただいてもよろしいでしょうか。

知事

はい、先ほどの繰り返しになりますけれども、やはり感染ルートというのが、最初の、それから次の次のということで、すべての例もお配りをして目を通していただいたわけなのですけれども、いくつかの、3つか4つかだったと思いますけれども、感染源がやはり首都圏からでありましたり、仙台へ行ってきてでありましたり、そこから始まると。そして、友人、知人、家族、職場というふうに、どんどんと3次感染まで広がっていると

というようなことでありますので。その最初の感染と言いますかね、外から持ち込まれていると言うと、ちょっと変な表現なんですけれども、やはりそののころをしっかりと、できる限りの対策を取ることが意義のあることだと思ふ、というふうにおっしゃっておられました。

記者

その中でですね、例えば発熱者を具体的に把握できることに意味があるのか、それとも、山形県がこの検温をやっているということ自体をですね、対外的に知ってもらって、ちょっと来にくいなという心理的な抑止力を生ませるのが目的なのか、そういうところについてのご意見とかはあったのでしょうか。

知事

そこまでの細かいところはなかったやに思っております。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

河北新報の岩田です。連日、感染者が確認されていて、私の記憶だと、最初の感染者が出た週の1日を除いては、知事はずっと、毎日会見されて、出ていらっしゃると思うのですが、東北では、他県では毎日知事が会見していらっしゃる、感染者が出るたびですね、やっているとこのころはあまり無いようで、その辺りの、やってらっしゃる思いとかですね、何かあれば教えていただければと思うのですがけれども。

知事

はい。東北（の状況）を実は調べてもらいました。知事がやっているところが何県かあってということもありましてね、当面の間、私をご報告するというにしました、ただそれだけのことでございます。いずれかの日には部局対応になるかもしれないのですが、当面の間ということで、私がお知らせしているところであります。